



“いいまち”つくる井町です!!

岡崎市議会議員

井町よしたかの“いいまち”ニュース

(市政レポート)

子供からお年寄りまで幸せを感じられる岡崎市を目指します!

発行：岡崎市矢作町字出口1番地 井町圭孝連絡事務所(東し労組内) TEL:34-2514

明けましておめでとうございます。引き続き“いいまち”づくりのため活動してまいりますので、本年もよろしく願いいたします。

去る11月9日から10日間にわたって開会された11月臨時会及び11月30日から19日間にわたって開会された12月定例議会について、私の一般質問も含め、トピックスを以下に報告いたします。

おかざき市民応援給付金

(ひとり5万円支給)

約40万人の岡崎市民に一人5万円支給すると約200億円が必要となる。その財源をどのように捻出するかが賛否の判断基準となるが、今回議案として提出された財源は、①財政調整基金(自由度の高い貯金)の他、目的をもって積み立ててきた基金(②公共施設保全整備基金、③公園施設整備基金、④東岡崎駅周辺地区整備基金、⑤美術博物館等整備基金、⑥文化施設整備基金)を残さず全てを取り崩すというもの。特に①財政調整基金及び②公共施設保全整備基金を全額取り崩すことについて、今後の市民に大きな負担を残すと判断。その理由は①財政調整基金については、大規模災害発生時の初動に必要な財源となるほか、来年度はコロナの影響で税収減が見込まれており、例年並みの行政サービスを維持するためには財政調整基金を活用することが求められる。次に②公共施設保全整備基金については、本市の公共施設は昭和50年代に建設されたものが多く、毎年18億円程度の保全業務が必要であるが、基金がなくなることで建物の安全性が確保できなくなる可能性が発生する。以上のことから今回提出された5万円給付の議案については、市民に今後大きな負担を負わせることになると判断し、反対した。採決においても賛成2、反対34で否決された。

確定申告業務の

コロナ対策

例年2月中旬から3月中旬にかけて岡崎市役所内で特設会場を設けて行っている市民税県民税及び確定申告の申告相談について、今年も特設会場を設けて実施するが、毎年多くの方が申告相談に訪れ、ピーク時には長時間の順番待ちを余儀なくされていた。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今年度は消毒液の設置をはじめ、申告相談の順番予約や予約の近づいた方に自動的に連絡をする受付番号管理サービスを導入し、3密の回避にも努める。



【受付・職員】

消毒液設置、待合室にパーテーション設置。職員はフェイスガード及び手袋を着用し、相談業務にあたる。

【3密回避】

窓口での受付も当然可能だが、インターネットからの事前予約が可能となる。また、長時間の順番待ちが必要な方には、自分の順番が近づいたときに電話かショートメッセージで連絡するサービスを実施する。直接会場を訪れない郵送による申告書の提出も可能。



マイナポイント制度延長

令和3年9月まで

令和元年10月の消費税率改定に対する消費活性化策として令和2年度からマイナポイント制度が開始された。当初は令和2年度で終了の予定であったが、マイナポイントカードを申請する人が増え、手元に届くまでに数カ月かかることから、政府が延長を決定。本市も9月までの窓口対応を実施する。(ポイント還元率25%のマイナポイント制度を利用するにはマイナポイントカードが必要)

岡崎市立小中学校

30人学級実施の検討

市内全小中学校における30人学級の実施に向け、教育施設や教室の規模などを検討する教育委員会の付属機関として、「30人学級実施検討会議」を設置する。現在、本市では小学校1、2年生と中学校1年生が35人、その他の学年は40人で学級編成を行っている。国も少人数学級への動きを見せていることから、全国の流れに後れを取らぬように進むことを期待する。

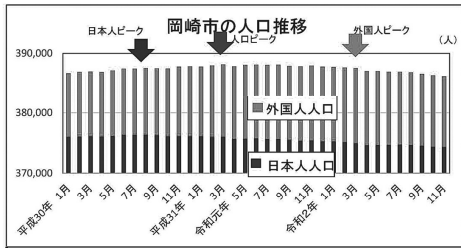
井町の意見!

一人5万円政策は、財源があつて実現できるものである。行政の市民サービスを犠牲にしてまで実施すべきではない。また、コロナ対策は、国や県の支援と合わせてより市民に寄り添える支援が必要と考え、提案していく。

井町の部屋

12月定例議会において私自身19回目となる一般質問に登壇しましたので、主なQ&Aを報告いたします。

本市の外国人市民



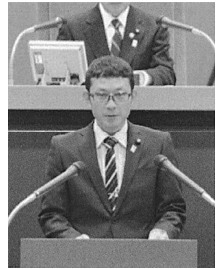
本市の日本人の人口は平成30年8月をピークに減少を始めている。一方、外国人市民の人口はコロナが拡大するまで増え続けていた事実をもとに今回一般質問を実施した。

Q 外国人支援に取り組む活動団体に対し、本市が行っている支援を伺う。

A 地域に住む外国人市民に閲覧板でお知らせしたいときなどは、国際課で、町内会規約やチラシなどの翻訳にあたっている。また、公営住宅など一定の外国人集住地域には、町総代からの推薦により、母国語と日本語に精通したコミュニティ通訳員の配置を推奨している。現在16人のコミュニティ通訳員があり、地域の問題解決やコミュニケーションシヨングリにご活躍いただいている。さらに、市民活動団体への支援としては、外国人市民支援事業補助金を設け、日本語教室開催や、多言語による市政情報紙発行などのボランティア活動に対して支援を行っている。



井町質問詳細



Q 日本語が分からない児童生徒向けに希望に応じて日本語の基礎や日本の学校生活について学ぶプレクラス制度を設けているが、プレクラスを卒業した児童生徒に対して、在籍校が行っている支援・指導を伺う。

A プレクラスを卒業した児童生徒には、日本語教育担当教員や学級担任等が協力して指導を行っているが、プレクラスで作成した個別指導計画を基に、一貫した指導と支援を行っている。また、日本語教育講師が、1週間に1回程度在籍校を巡回訪問し、日本語教室や在籍学級にて、母国語による指導補助や生活相談などを行っている。

Q 広い本市においてプレクラスは現在、南中学校のみで開催しているが、会場数を増やす考えを伺う。

A 市内の小中学校67校中、日本語指導が必要な児童生徒が在籍する51校全において指導・支援の体制を整えている。こうした体制に加えて、日本語がほとんど話せない児童生徒を対象として開設したプレクラスだが、受け入れ可能人数は、小中学生合わせて40名である。昨年度の開設からこれまでで同時期に受け入れた最大の人数は18名であり、受け入れ人数に余裕のある状況のため、会場を増やしていくことについては、今後の状況を注視し、必要な状況になった際に検討していきたい。

乙川の河川空間利用

Q カヌーを楽しむ方にとって乙川は魅力的な場所のようだが、利用者をさらに増やすため、船を降ろしやすくするなど整備を行う考えを伺う。

A 乙川河川緑地では、昨年度から工事を行っており、今年度に行う広場、トイレ、河川敷に下りるための堤防法面の階段や坂路などの整備で一区切りとなる。個人がカヌーなどを楽しむために、乙川河川緑地にある施設を利用することは可能であるが、カヌー等を水面に浮かべるために、自動車を護岸近くに駐車することは、都市公園法に照らすと、車が自由に河川敷を通行することが危険を招く行為にあたることから、認められていない。

井町の意見！

●岡崎市の人口は人口推計報告書によると、2035年までは増加し、約39万5千人になると見込まれているが、現在は残念ながら減少が始まっている。日本人のピークは平成30年8月で37万6,401人、一方その後本市の人口は増え続け、本市の人口ピークは平成31年3月で38万8,201人となっている。日本人が減少を始めた後も人口が増加した要因は、外国人市民が増加したことによるものである。労働力不足を外国人に頼る社会が進んできている以上、外国人市民とのコミュニケーションが一層重要になってくる。その力ギを握るのは、教育にあると考える。今後一層の外国人市民への教育支援は必要である。

井町よしたか 連絡先



HPIはこちら

事務所 〒444-8522 岡崎市矢作町字出口 1 番地 東レ労組内
TEL : 0564-34-2514 FAX : 0564-34-2517

自宅 〒444-0931 岡崎市大和町字塗御堂24-6
TEL : 070-5253-4192 FAX : 0564-32-4192

E-mail : yimacchi@m5.catvmics.ne.jp

ブログ : <http://ameblo.jp/iimachi-imachi/>



政治に参加しよう！

地域の困りごとや、市政に対する意見・ご要望など気軽にご連絡下さい。